

出張報告書

令和 6 年 3 月 11 日

市議会議長 様

会 派 名 にじの会

代表者氏名 殿本 マリ子

下記のとおり報告します。

記

- 1 目 的 議会改革を考える
- 2 出張先 JIAM
- 3 出張期間 令和 5 年 10 月 23 日 ～ 令和 5 年 10 月 24 日
- 4 出張者氏名 高比良 正明
- 5 てん末報告 別紙のとおり

講義① 地方議会の展望

北川正恭 早稲田大学 名誉教授

先行き不透明な時代となり、また、生成 AI 等技術革新が進む中、地方自治の取り巻く現状を解説。

その中で議会や議員に求められている役割やあり方について学ぶ。

講義② 「議会改革度調査」から見る地方議会

中村健 早稲田大学マニフェスト研究所 事務局長

早稲田大学マニフェスト研究所において実施された「議会改革度調査」を基に全国の地方議会の取組について、また具体的な議会変革の手法などについて解説。

事例紹介・演習 住民参加・情報公開を進める取組①

菅原由和 岩手県奥州市議会 議長

コーディネーター：中村健

6年にわたる議長経験より、議長マニフェストを作成し、工程表を含めて公表、ワールドカフェによる様々な世代の市民参画、議員間討議の制度化による熟議と市民への説明責任遂行、「見える化」の活動、儀委の成り手不足解消の調査研究、主権者教育の推進、「政策立案等に関するガイドライン」を策定し、実現に向けて取り組んでいる奥州市から事例紹介をしていただき、その後、質疑応答を通して理解を深める。

事例紹介・演習 住民参加・情報公開を進める取組②

天野早人 長野県宮田村議会 議長

コーディネーター：中村健

議会活動の基軸としている「宮田村むらづくり基本条例」をはじめ、議会なんでも相談室やむらびと会議等住民参加の推進に力を入れている

宮田村議会から事例紹介。

その後、質疑応答を通して理解を深める。

演習 各議会における今後の議会改革推進の検討

中村健 早稲田大学マニフェスト研究所 事務局長

効率的な会議の行い方について学ぶために、「議会広報を考える」をテーマに、ダイアログ（対話）の手法を用いた演習を体験し、どのように議員間討議を行うか、どのような手法を用いれば会議の成果が挙がるかを学ぶ。

先進例：議員活動の自己評価公開（北海道福島町）、「議会だより」だけでなく、議員1期4年間における「3つの約束（マニフェスト）」動画の公開（埼玉県大里郡寄居町）、議員15名、町民13名による議会政策サポーター会議（長野県上水内郡飯綱町）、請願者による委員会での意見陳述・意見交換（東京都町田市）、岡山県立新見高校の生徒たちが、自らまとめた陳情書を提出、議会傍聴で、受付票の記入を廃止（群馬県太田市、泉大津市）少年議会・少年町長（山形県遊佐町）、兵庫県西脇市議会の議会報告会（45回／年）。

・2000年に地方分権一括法が制定され、国と地方は上下主従関係から対等関係となった。地方は国の下請けではない（自己決定、自己責任）と気付き、改革を始める議会が増えてきた。議会の役割が重要になっており、議会基本条例を制定することで議会自身が役割を自覚するようになってきている。議会基本条例が制定され執行部優位から議会との対等な二元代表制へ移行した。改革の順序は、維新のような量的削減から始まったが、議会の首を絞めることに気が付いて、質的充実を目指すよう

になってきた。

- ・行政は前例主義であり、街の課題解決や未来のことについて、議会が制度を合わせるように変えることで、二元代表制が機能する。

- ・議員は住民の御用聞きではない。特に後援者の代理人ではない。支持者でない市民の意見を積極的に求め、市民全体のために普遍化し、議会活動が地域経営に貢献するための活動になっているか自問せよ。

- ・政策立案者として職務に当たれ。

- ・他の行政や議会の取り組みは徹底的にパクレ！

- ・当たり前と思われていることに疑問を持つこと。これからは議会力の差で地域に差が生まれる。

- ・議員の提案を個人的意見で終わらせないために、議員間自由討議をしろ。それを成立させるために、ダイアログ（相互理解を深めて、互いに共感や意識および行動の変化を引き出す創造的なコミュニケーション）研修、ファシリテーション（福社会議やミーティングなどの集団の活動を円滑に進めるために行われるサポート）研修を議員が受け、議員同士のコミュニケーション改革を行え。

- ・チーム議会の視点で議会事務局と一体で議員、議会活動に取り組む。そのために事務局の充実を促す。

- ・真の議決権を行使することが議会に求められており、それを果たすために情報収集、調査、分析をする能力が必要となる。

その機能は議会図書室であるが、人手・予算・広さの確保ができず、結果的に議員が使わなくなっている議会が多い。

岸和田市議会でも、議員控室の上 4F にある議会図書室はエアコンが故障したまま、新庁舎建設まで修理されることはなく、普段カギがかかっている。

そもそも議会図書費は、年間 1 万 5 千円しかなく、秋ごろに私が提案して購入した 3 千円弱の議会質問に関する本が初めての購入であり、

日経グローバルのような雑誌すら購入されていない（政務活動費も同じく。議会で購入しているのは、近隣では堺市）。

- ・法律や仕組みを正確に理解せよ。そのために全議員対象の研修会を企画せよ。

- ・個人の活動、選挙活動、会派の活動、議会の活動の棲み分けを明確にし、手柄競争に走るな。

- ・議会内で合意形成できたものは、決議等で議決し機関決定せよ。

北川講師には「議会活動の実績を報告してみよ。議員活動ではないよ」と先制パンチを打たれるも、75人ほどいた参加者の誰も返すことができなかったため、ボロカスに批判されるも、「本講義に来ただけ、あなたたちはまだマシだ」と、慰めにもならぬ言葉をかけられスタートした講義。

「議会改革は一人一人の議員による意識改革から始まる。その最初の一人に、あなた方が自分の議会でなりなさい」とかけられた言葉こそ、小田実の「一人から始める」や竹中労の「人は、無力だから群れるのではない。あべこべに、群れるから無力なのだ」を思い出させる。

「最初の一人」について、アメリカでは「ファーストペンギン」と呼ぶ。集団で行動するペンギンの群れの中から、天敵がいるかもしれない海中へ、魚を求めて最初に飛び込む1羽のペンギンのことだ。

その勇敢なペンギンのように、リスクを恐れず初めてのことに挑戦するベンチャー精神の持ち主を、敬意を込めてそう呼ばれる。

政治はしつこさが重要な要素である。

私も職員から「何年も前に言われていた時は意味が分からなかったが、今になって社会を含めて本市でも理解が進み、実現しだしてきた」と言われることがしばしばある。

その意味で私は既に、しつこいファーストペンギンであるのかもしれない。

れないが、慢心せず、その熱量をもって議会を説得し、理解を広げ、民主主義を岸和田や南大阪にもたらしたいとの看板を下ろさぬようにしたい。